

II 札幌のポジショニング

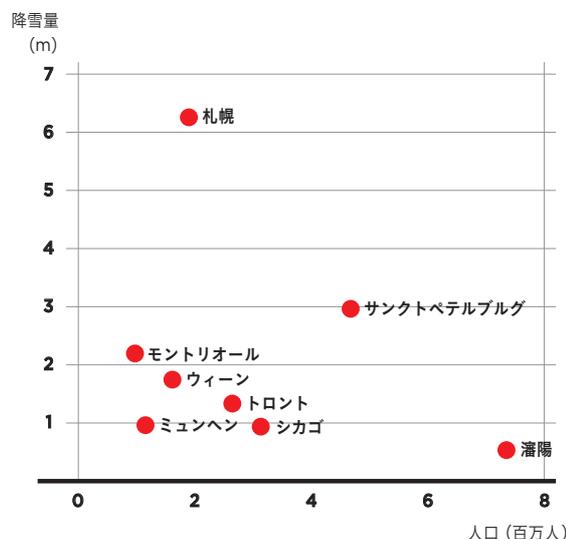
1. 札幌の姿

世界の中の札幌

雪降る大都会

- ・ 年間6mもの雪が降る190万都市はここだけ
- ・ 世界の中の大都市
フランス・パリ220万人、ドイツ・ハンブルグ170万人、スペイン・バルセロナ160万人、オーストリア・ウィーン160万人など、世界に知られる大都市と同クラスの人口規模

アメリカであれば人口5番目の都市、シカゴ285万人より小さく、サンフランシスコ80万人より大きい
- ・ 世界的なスポーツ大会の開催都市
オリンピック(1972年)、ワールドカップ(2002年)、ノルディック世界選手権(2007年)など

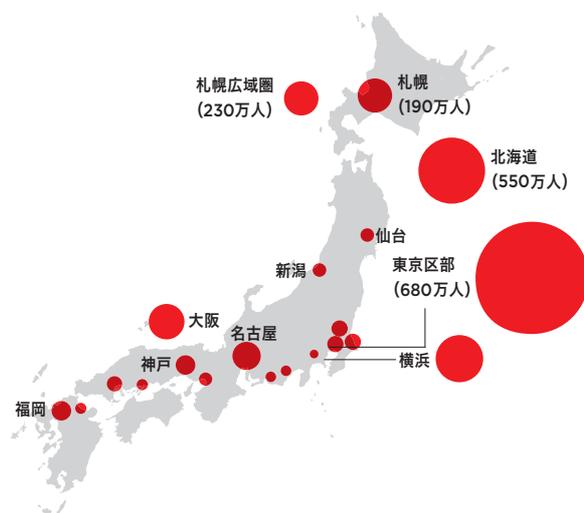


日本の中の札幌

最北の拠点都市

- ・ 日本で人口が5番目の大都市
- ・ 日本の主要企業のコールセンターの集積
- ・ 世界最大の乗降客数を誇る新千歳～羽田便(約950万人/年)
北京～上海間、ニューヨーク～シカゴ間より多い
- ・ 国際空港と重要港湾との近距離ネットワーク
新千歳国際空港、苫小牧港、小樽港、石狩港
- ・ 多様な自然との近接性(緑、山、海など)
札幌の6割以上が森林面積

市内に支笏洞爺国立公園、天然記念物の藻岩・円山原始林を持つ



北海道の中の札幌

人&モノのハブ※5&ゲート

- ・ 北海道の人が集まる都市、道外への人口流出を防止する役割

北海道全体の40% (札幌広域圏の人口約230万人)

- ・ 北海道の経済・行政機能の中心

札幌立地の事業所は北海道全体の3割

北海道の県庁所在地、市内立地の外国政府関連機関 (領事館など) は26箇所

- ・ 北海道の間屋機能 (道外からもものを仕入れる、道内のものを集める)
- ・ 北海道の学術都市 (市内大学数15)
- ・ 北海道の文化拠点 (札幌ドーム、札幌コンサートホールKitaraなど)

都市としての成り立ち

若い実験都市

- ・ 開拓使設置からわずか140年の都市
- ・ 始めから「北の都」を意図された近代都市計画のモデル都市

基盤の目や大通の形成

- ・ 外国人技師たち (ホーレス・ケプロン※6、エドウィン・ダン※7、ウィリアム・スミス・クラーク※8等) によって新しい産業技術が移植された都市

大規模畑作、酪農業、ビール、都市基盤技術など

- ・ 建築様式など欧米文化との近接性

明治時代に建築された西欧風建築物 (道庁赤レンガ、時計台、豊平館※9など)

- ・ 屯田兵※10等による移住政策が実施された都市

屯田兵制度による約7千戸、4万人の入植(明治4~37年)

札幌ドーム

プロ野球もJリーグの公式戦も開催される珍しいドーム。サッカー用の天然芝をドームに出し入れ



するホバーリングステージが大きな特徴。全国唯一、完全屋内天然芝サッカースタジアムともなる全天候型多目的ドーム。2002年FIFAワールドカップの会場となった。

札幌コンサートホール Kitara

楽器の生の音を最大限に引き出せるように音響設計されたコンサートホール。客席がステージを取り



囲むダイナミックな形状のホールは、奏者と聴衆との一体感を醸し出すほか、楽器の響きをも高め、最良のコンサート環境を作り出している。その性能の良さは世界的にも知れ渡り、演奏家の中では世界屈指のホールと評されている。

クラーク像

Boys be

ambitious! 一少年

よ大志を抱け! 一北海道の農業技術を向

上させるために招かれ、札幌農学校(現北海道大学)の初代教頭とな

ったクラーク博士が、日本を離れる直前に教え子

たちに言った名言である。右手を挙げる独特のポーズは「遙か彼方にある永遠の真理」を指し、そこ

に向かい大志を抱けとの思いが込められている。



1882年(明治15年)の札幌市街図

2. 札幌の見え方

市民から

大好きな街、ずっと住み続けたい街
 (平成23年度市政世論調査の郷土意識結果より)

ブランドイメージから

札幌は日本で一番魅力的な街
 食が大きな魅力の観光都市
 (地域ブランド調査2011^{※11}より)

有識者ヒアリングから

ストレスフリー^{※12}で過ごしやすい暮らしやすいイメージ
 楽しいライフスタイルを持てる街
 (平成21年度外部有識者ヒアリング調査結果より)

札幌市シティプロモート戦略会議から

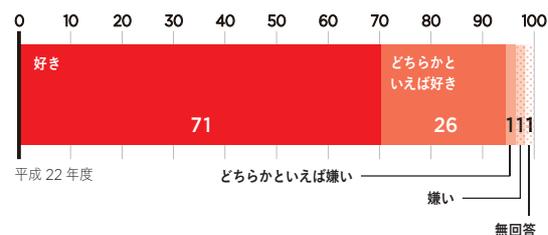
楽しいライフスタイルや生活文化があり、住みやすい街
 恵まれている素材や独自のライフスタイルの価値を
 市民が気付き世界に発信することが必要
 (平成22年度札幌市シティプロモート戦略会議開催結果より)

市民の意識

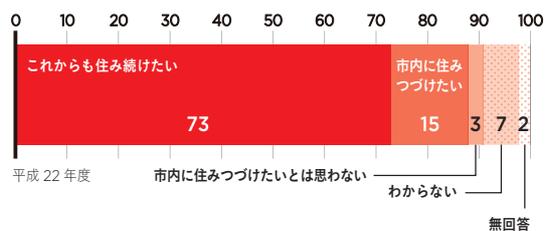
平成23年度市政世論調査の郷土意識結果より

市民の「札幌への好感度」は、97%(好き71%、どちらかといえば好き27%の合計)ときわめて高率となっています。その理由は「緑の多さや季節感」に加えて「交通機関や都市施設の充実」や「整然とした街並み」に支持が集まっています。また永住意向も88%(これからも住みつづけたい73%、市内に住みつづけたい15%の合計)と高く、「大好きで、ずっと住み続けたい街」と認識されています。

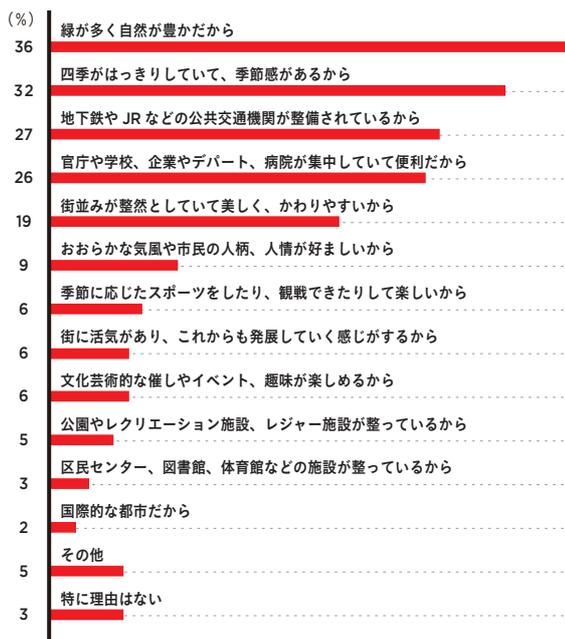
札幌が好きですか



永住意向



札幌が好きな理由

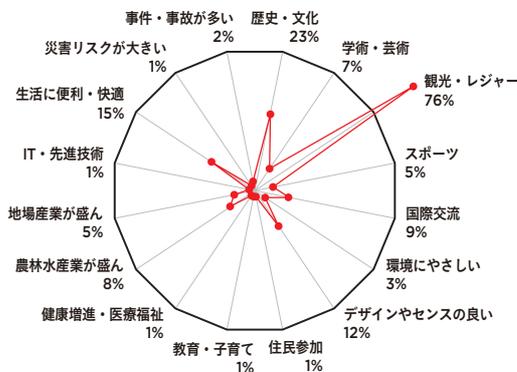


ブランドイメージ

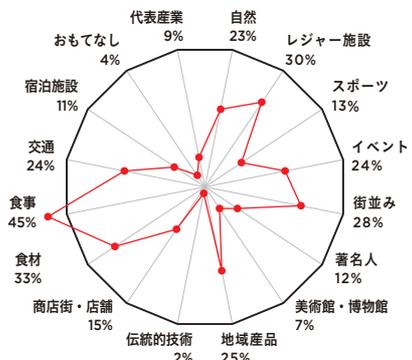
地域ブランド調査2011より

魅力度ランキング1位の札幌は、全国的にみて「観光・レジャー」のイメージ（76%、ランキング1位）が強く、「歴史・文化」（23%）も評価されており、観光意欲度も1位にランキングされています。地域資源評価においては、「食事がおいしい」（45%）と「買いたい地域産品」（25%）の評価が高く、産品購入意欲度も1位にランキングされています。一方で、その他の項目は、おしなべて強いイメージを持っていないと言えます。また、他の魅力度上位都市と同様、居留意欲度も5位と高く、「住みたい街」とも認知されています。札幌に来た観光客の満足度（満足+まあ満足）を見て95%と非常に高く、観光面での魅力が高いと評価されていることがわかります。

札幌のイメージ



札幌の地域資源調査



魅力度ランキング

順位			魅力度	
今年	去年		今年	去年
1	1	札幌市	57.0	57.0
2	2	函館市	56.7	55.5
3	3	京都市	54.9	52.2
4	4	横浜市	51.7	49.6
5	6	神戸市	50.1	46.4
6	8	富良野市	48.3	44.0
7	7	鎌倉市	47.8	44.5
8	5	小樽市	47.3	47.3
9	9	金沢市	40.7	38.6
10	17	奈良市	39.2	34.1

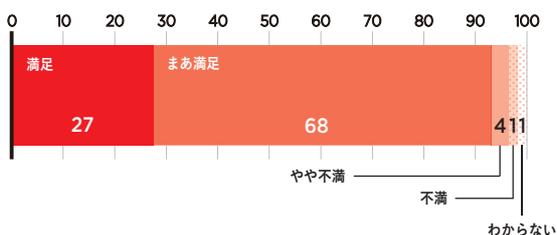
観光意欲度ランキング

順位			点	
今年	去年		今年	去年
1	1	札幌市	67.7	67.0
2	2	函館市	65.8	65.2
3	3	京都市	64.0	59.3
4	4	富良野市	58.1	58.0
5	5	小樽市	56.9	57.6
平均点			17.8	16.7

居留意欲度ランキング

順位			点	
今年	去年		今年	去年
1	1	横浜市	23.2	24.6
2	2	神戸市	22.5	21.6
3	3	鎌倉市	22.0	21.3
4	5	京都市	21.4	19.3
5	4	札幌市	19.7	19.4
平均点			3.4	3.2

札幌観光の満足度



産品購入意欲度ランキング

順位			点	
今年	去年		今年	去年
1	1	札幌市	74.7	88.9
2	2	夕張市	59.7	69.6
3	3	函館市	59.2	66.4
4	6	小樽市	55.6	57.4
5	5	名古屋市	55.5	57.8
平均点			6.3	7.5

観光レジャーの街(都市イメージ)

順位			点	
今年	去年		今年	去年
1	1	札幌市	75.6	76.5
2	2	函館市	74.8	75.5
3	4	富良野市	68.4	66.1
4	3	小樽市	61.4	66.5
5	6	熱海市	60.7	60.2
平均点			10.1	10.5

有識者ヒアリング調査結果

平成21年度外部有識者ヒアリング調査結果より

※外部有識者ヒアリング：首都圏における集客交流・観光6名、マスメディア4名、文化芸術・クリエイティブ産業関係者7名、経済（小売・流通・不動産開発）6名の計23名へヒアリング調査

札幌は、190万都市でありながら、自然環境と充実した都市機能のバランスが高く評価され、ストレスフリーで過ごしやすく暮らしやすいイメージが確立されています。また、自然のなかでの多彩なアウトドアの楽しみや良い食材の豊富さなどから楽しいライフスタイルを持てる街との認識も高くなっています。こういった札幌の環境やライフスタイルを活かして、創造的な産業などへ展開していくことが期待されています。

IT系やクリエイティブ系のソフト産業^{※13}が立地しやすい環境がある。

有識者ヒアリングでの主な意見

暮らしの魅力

- ・ 都市の煩雑さは低くストレスフリー、上品・クリーンで暮らしやすい。結婚しやすい、子供を育てやすい。
- ・ 四季が鮮明な大都市。花粉症にならない。夏は日の出も早く日が高い。涼しくて過ごしやすい。地震が少なく梅雨もない。
- ・ 都市でありながら自然を満喫できる環境と開放的なイメージである。
- ・ アウトドアや自然観光とライフスタイルが重なっている。
- ・ 良い食材が調達しやすく物価も安い。飲食店は、面白いお店が多い。
- ・ 都市機能集積と空港があり、都市の規模もちょうどいい。
- ・ 首都圏から行き来しやすい。札幌から行くより東京から来る方が安い。

札幌の発信の強み

- ・ 北海道の良さをそのまま伝えたほうがよい。外国の人は田舎っぽさ（カントリーっぽさ）が良くて来ている人が多いと思う。
- ・ 街の面白さ（遊びの情報）を発信すべきである。
- ・ 札幌の情報発信は、チームでの取り組みが重要である。エリアの底力として見せる。

ビジネス環境の魅力

- ・ 都市機能と自然環境が共存している点が環境ビジネス面での強みである。
- ・ IT系やクリエイティブ系のソフト産業^{※13}が立地しやすい環境がある。

文化環境の魅力

- ・ 札幌コレクション^{※14}等の取組はおもしろい。冬物限定コレクション等、札幌の強みに活かしていけばさらに伸びる。
- ・ 活躍する若手作家が増えてきている。もの書きとしては書くことに専念できる環境がある。

観光状況の魅力

- ・ 最も大きい観光マーケットと言われているレクリエーションとツーリズムの中間領域の資源は豊富であり、北海道の旅行の拠点となっている。

札幌市シティプロモート戦略会議

※札幌市シティプロモート戦略会議:札幌市内のメディア3名、観光1名、スポーツ関連1名、デザイン・ファッション2名、地域ブランド等研究者1名の計8名から構成

札幌は、食、遊び、自然などを満喫できる札幌独自の楽しいライフスタイルや生活文化があるとともに、充実の都市機能や廉価な物価など札幌は住みやすい街として認識されています。しかし、近年の経済や観光などの落ち込みから、元来、恵まれている素材や独自のライフスタイルの価値に市民自らが気付き、広く世界に発信していくことが重要との意見も大勢をしめていました。

札幌市シティプロモート戦略会議での主な意見

札幌のイメージ

- ・札幌は生まれながらにして美人のお嬢様。恵まれた環境で化粧の仕方も知らずに育ったが、年を取り始めて困っている状況。人口、経済、観光、色々なものが落ち始めており、札幌は化粧が必要になってきている。
- ・外から見ると食、遊び、自然など札幌の生活は豊かである。市民がそれに気付いていないので、市民が札幌を自慢することも少ないのではないかな。
- ・札幌の素材を自分たちで手を加え、世界から評価される、世界に発信していくことが重要。

暮らしの魅力

- ・転勤者が残ることも多く、大抵のものは手に入るし、食べ物は安くておいしく、住みやすいまちである。
- ・ビアガーデンのように市民も観光客も喜ぶものがたくさんあると良い。
- ・会費制の結婚式や、様々なシーンでジンギスカンを食べることなど、札幌の生活文化は本州と異なる点がある。大陸的ともヨーロッパ的ともとれる札幌の生活文化が外からも魅力的に感じるのではないかな。

食の魅力

- ・札幌の魅力は、まず食、とりわけ素材が良い。フレンチやイタリアンに関しては、コストパフォーマンスも含めてクオリティが高いのはもっとアピールすべきであり、食通の人たちはもう知っている。

観光の魅力

- ・芸術の森、モエレ沼、石山緑地、滝野など郊外に観光スポットがある特長により、滞在型の旅行形態を推進できる。

3. 札幌の魅力資源



札幌の魅力資源は、既に一つ一つでも札幌らしい個性と輝きを放っており、札幌の財産となっています。そして、こういった多様な魅力資源が札幌のライフスタイル、文化や産業を形成しています。

札幌の魅力資源は、単体でも十分に魅力のある資源ですが、他の都市と比較した場合や世界に発信していく場合には、必ずしも十分ではないかもしれません。そのため、これからは、単体の魅力を高めることだけでなく、様々な魅力資源を組み合わせることで相乗効果を発揮していく展開が重要となります。元来恵まれている素材や札幌独自のライフスタイルの価値を再発見・再認識して市民の誇りに変えていくと同時に、札幌を自己実現の場を選択してくれる人たちの数を増やしていくことが必要と考えます。

札幌は、既存の魅力資源を活用すれば十分に新しいプロモーションができるのです。

ここでは、札幌の魅力と言われるさまざまな要素の一例をランダムに拾い上げてみました。

これらの要素を掛け合わせたり連携させたりしながら、札幌の新しい魅力を再構築していくことが大事だと考えます。

自然資源

変化の鮮明な四季

- ・ 晴天の多い春、冷涼な夏、美しい紅葉の秋、銀世界の冬 など

豊かな森林資源

- ・ 市域の60%が森林、豊富な木質バイオマス資源
- ・ 支笏洞爺国立公園に隣接
- ・ 市内中心部にある天然記念物の藻岩山原生林と円山原生林(約450種の豊かな植生)
- ・ 野幌自然公園に隣接

多様な野生動物

- ・ エゾヒグマ、エゾシカ、キタキツネ、エゾリス
- ・ クマゲラ、アカゲラ、フクロウ、カワセミ、カワガラス、マガモ
- ・ ヘイケボタル
- ・ 豊平川など、街中へのサケ遡上 など

市民による環境ムーブメント

- ・ 北海道の野生動物復元プロジェクト(2006年に円山動物園が、円山エリア全体の環境保護・生物多様性の確保を行い、市内全域・北海道全体の自然環境についてのメッセージを世界に発信することを目的として開始した)
- ・ カムバックサーモン運動(1978年からおきた豊平川に再びサケを戻すための市民運動。1979年春にはサケ稚魚の放流再開、1981年秋以降親ザケとして豊平川に戻る)

豊かな水資源

- ・ 水源の森百選に選ばれた奥定山溪国有林水源と札幌水道水の98%以上をまかなう豊平川
- ・ 冬に大量の雪が降るおかげで札幌の水道水は豊かでおいしい

環境首都・札幌

札幌市では市民一人一人がこれまで以上に地球環境保全に取り組んでいく決意をし、世界に誇れる環境都市を目指すため、「さっぽろ地球環境憲章」及び「地球を守るためのプロジェクト・札幌行動～市民行動編(さっぽろエコ市民26の誓い)」を掲げ、2008年6月25日に「環境首都・札幌」を宣言しました。



都市基盤

歴史に由来する整然とした街並み

- ・ 基盤目状の広い街路
- ・ 都市軸(大通、創成川)
- ・ オープンスペース、都市公園、緑地
- ・ グリーンベルト構想(札幌の市街地は南西部山岳丘陵地の森林と、北西部平地に広がる農地、草地に囲まれて成立しており、これらの自然的要素を活かしながら拠点となる公園を配置し、札幌の街を緑で囲む構想)

都心に行きやすい公共交通ネットワーク

- ・ 地下鉄(南北線、東西線、東豊線)
- ・ JR線(札幌近郊5路線)
- ・ バス(中央バス、JR北海道バス、じょうてつバス、市内循環バス、空港連絡バス)

都心の回遊を支えるネットワーク

- ・ 環境にやさしい路面電車
- ・ 発達した地下歩行空間(駅前通地下歩行空間の開通、大通と札幌駅の地下街)
- ・ ペロタクシー(近距離の移動に使う自転車タクシー)、ポロクル(札幌都心部の自転車共同利用サービス)

渋滞の少ない道路網

- ・ 高速道路(北海道縦貫自動車道、北海道横断自動車道)
- ・ 2本の環状道路と13本の放射道路からなる幹線道路網

市外との良好なアクセス

- ・ 札幌駅から約40分のアクセスの新千歳国際空港
- ・ 首都圏への運行頻度も高い(新千歳⇄羽田間は乗降客数世界一)
- ・ 道内各都市を結ぶ丘珠空港(市内)とJR各線

東京以北最大の商業集積

- ・ 大型小売店117店(百貨店5、スーパー112)
- ・ 大規模ショッピングモール(ノルベサ/サッポロファクトリー/パセオ/イーアス札幌/アピア/さっぽろ地下街/アリオ)
- ・ 狸小路商店街等、市内だけで103の商店街

北海道の医療拠点

- ・ 病院数209箇所、病床数40,486、医師数5,991人
- ・ 大学病院等高度医療の集積
- ・ 市立札幌病院のNICU(新生児集中治療室)

北海道の学術都市

- ・ 190万人都市の十分な数の小学校(208校)、中学校(107校)、高校(56校)
- ・ 高度教育機関の集積(市内の大学11校、札幌広域圏では大学24校、短期大学10校)
- ・ ノーベル化学賞受賞者の輩出(鈴木章北海道大学名誉教授)
- ・ 札幌市立大学・大学院(デザイン研究科、看護学研究科)による地域のまちづくりへの貢献

都市環境

ストレスフリーな居住環境

- ・ アレルギーフリー(スギ花粉が少ない)、公害が少ない
- ・ 梅雨が無い、猛暑が少ない、熱帯夜が少ない
- ・ 自然災害のリスクが少ない(地震が少ない、台風が少ない、雷が少ない)
- ・ ちょうど良い都市規模(渋滞が少ない、行列が少ない)
- ・ 片道平均30分のコンパクトな通勤圏
- ・ 寒さに強い高断熱住宅、廉価な土地建物価格

政令市一の多彩な公園

- ・ 政令市一の公園数(2,669)を誇る緑、花、アートなどが楽しめる多彩な公園(大通公園、中島公園、円山公園、モエレ沼公園、前田森林公園、百合が原公園など)

明治時代の歴史的建造物

- ・ 日本では最も若い大都市であるが、開拓使や屯田兵など札幌を特徴づける歴史を語る文化財が残されている。
- ・ 国指定重要文化財等7箇所(開拓使が手がけた最高傑作である本格的洋風建築物の豊平館など)
- ・ 道指定有形文化財2箇所(屯田兵の父とも言われた屯田事務局長の邸宅であった旧永山武四郎邸など)
- ・ 市指定有形文化財3箇所(明治天皇のご休憩所であり、新渡戸稲造など札幌農学校の学生達も集った清華亭など)

気候と歴史に由来する都市景観

- ・ 計画的に造成された碁盤の目状の広い街路
- ・ 雪景色(雪堆積のための広幅員の道路)
- ・ 眺望の良い展望台(藻岩山ロープウェイ、羊が丘展望台、旭山記念公園、大倉山)
- ・ 並木(北海道大学のポプラ・イチョウ並木など)
- ・ 寒色系の色が美しく見えて、春に芽吹く草花が映える都市景観(札幌景観色70色)

文化資源

全国イベントの行われる文化施設

- ・ 札幌コンサートホールKitara
- ・ 札幌芸術の森
- ・ 札幌ドーム
- ・ 真駒内アイスアリーナ
- ・ 北海道立総合体育センター（きたえーる）

多彩なプロスポーツの本拠地

- ・ プロ野球チームの本拠地（札幌ドーム）
- ・ プロサッカーチームの本拠地（札幌ドーム、宮の沢白い恋人サッカー場、厚別競技場）
- ・ プロバスケットボールチーム、プロフットサルチームの本拠地
- ・ スキー、スノーボードなどウィンタースポーツの国際大会開催地
- ・ 北海道マラソンの開催地

国際的なスポーツ大会会場

- ・ オリンピック施設（真駒内屋内・屋外競技場など）
- ・ ワールドカップ施設（札幌ドーム）
- ・ ノルディック世界選手権施設（大倉山ジャンプ競技場など）

産業資源

成長するクリエイティブ産業

- ・ 世界や全国に通用するキャラクターやタレントたち（初音ミクや大泉洋など）
- ・ サッポロライフをデザイン、クリエイトする「札幌スタイル」
- ・ 様々なジャンルのクリエイターとそれをサポートするインキュベーション施設が集まる「インタークロス・クリエイティブ・センター」

IT産業集積

- ・ 札幌テクノパーク（1986年、全国に先駆けて整備されたIT分野の研究開発団地）
- ・ サッポロバレー（JR札幌駅北口周辺のIT関連企業集積地、「札幌駅北口ソフト回廊」とも呼ばれる）

年間6m以上の雪降る190万都市の寒冷地技術

- ・最新の除雪技術や凍結路面对策、雪処理システムなど
- ・住宅の断熱技術
- ・雪氷冷熱利用（建物の雪氷冷房など）、融雪槽（下水処理水、清掃工場の余熱、地域暖房の夜間余熱などを活用した融雪）

食資源

北海道食材の多様な販売チャネル

- ・札幌都心の商業集積や料飲店（大通、すすきの歓楽街、札幌駅周辺など）
- ・全道から食材の集まる市場（中央卸売市場、二条市場など）
- ・北海道食材のアンテナショップ（HUG、ザ・ライフ・ストックなど）

素材を活かす食文化

- ・さっぽろキュージーヌ（フレンチ、イタリアン）
- ・蝦夷前寿司
- ・さっぽろスイーツ

札幌発信の食文化

- ・さっぽろラーメン
- ・ジンギスカン
- ・スープカレー
- ・道産ビール、道産ワイン、道産チーズ、道産生乳アイスクリーム
- ・米、麦など農産物の道産ブランド
- ・ピアガーデン

おいしい飲料水

- ・ミネラルウォーター級の札幌水道水（札幌市の水道水よりおいしい市販ミネラルウォーターはわずか4種類、平成13年消費者協会調査）

イベント資源

年間を通じて行われる多彩なイベント

- ・ 2月 さっぽろ雪まつり、すすきの氷の祭典
- ・ 5月 ライラックまつり
- ・ 6月 YOSAKOIソーラン祭り
- ・ 7-8月 PMF (パシフィックミュージックフェスティバル)
- ・ 7-8月 サッポロ・シティ・ジャズ
- ・ 7-8月 大通ビアガーデン (さっぽろ夏まつり)
- ・ 8月 RISING SUN ROCK FESTIVAL (石狩市)
- ・ 9月 だいどんでん
- ・ 9-10月 さっぽろオータムフェスト
- ・ 10月 札幌国際短編映画祭
- ・ 11-12月 さっぽろアートステージ
- ・ 11-12月 ミュンヘン・クリスマス市 in Sapporo
- ・ 11-2月 さっぽろホワイトイルミネーション

レクリエーション資源

近接しているアウトドアスポット

- ・ 札幌都心から20km圏内に複数のゴルフ場 (札幌北広島ゴルフ倶楽部、廣済堂札幌カントリー倶楽部、札幌国際カントリークラブ島松コース、恵庭カントリー倶楽部など)
- ・ 市内に5つのスキー場 (札幌国際スキー場、ばんけいスキー場、札幌藻岩山スキー場、サッポロテイネスキー場、Fu's snow area)
- ・ 札幌市内から車で30km圏内のキャンプ場 (オートリゾート滝野、定山溪自然の村、支笏湖モラップキャンプ場、マオイオートランドなど)
- ・ 札幌近郊の登山スポット (天狗岳、手稲山、恵庭岳、余市連山、空沼岳、樽前山など)
- ・ 札幌都心から15km程度で海水浴 (小樽ドリームビーチなど)

近接しているレクリエーション施設

- ・ 市内の定山溪温泉と豊平峡温泉、100km圏内に複数の温泉地 (朝里川、支笏湖、登別、洞爺湖など)
- ・ 政令市一の公園数、札幌都心の公園 (大通公園、中島公園)、札幌郊外の多数の公園 (円山公園、旭山記念公園、モエレ沼公園、百合が原公園、平岡公園、野幌森林公園など)
- ・ 年間80万人以上が訪れる円山動物園

人材資源・気質

寛容な札幌の市民気質

- ・ おおらかで寛容な「人の良さ」と、しがらみのない生活様式（「受け入れ力」の高さや、会費制結婚式の普及）
- ・ 新しいものを気軽に受け入れ、選ぶ「進取の気風と都会的センス」（「ヒットは札幌から」伝説や、テストマーケティング都市）
- ・ 活動的で美しく積極的な女性群（女性人口比率の高さと職域の豊富さ）
- ・ 若者でも起業のしやすい地域（大都市の中でも高水準の新規開業率）

若い人の活躍できる場所

- ・ 若手クリエイターの育成を目的としたインキュベーション施設※15「ICC（札幌デジタル創造プラザ）」
- ・ 若手女性学長が街づくりのひとつの大きな起点を目指す「オオドオリ大学」
- ・ まちづくりとアートをさまざまなかたちで結びつける空間「OYOYO」
- ・ NPO法人「ねおす」、環境NGO「ezorock」など、人々が自然とバランス良く暮らすための新しい社会の仕組み（自然と社会）を提案し続ける環境団体

ソフトパワーの源泉となる人材

- ・ 女性作家、女性漫画家群の存在（藤堂志津子、谷村志穂、朝倉かすみ、乾ルカ、いがらしゆみこ、大和和紀など）
- ・ 札幌長期滞在・仕事場所有の作家・アーティストなどの存在（池澤夏樹、佐々木譲、村上隆、栗城史多、やしきたかじん など）
- ・ 初音ミク、大泉洋、寺久保エレナに代表されるコンテンツ創造人材の存在と育成機関
- ・ 全国に数多く存在する有力札幌ファンと札幌勤務体験者の存在

制度資源

参加のできるまち

- ・ 札幌市自治基本条例（「情報共有」と「市民参加」をポイントとして、「市民が主役のまちづくりを進めるためのルール」として2007年に施行された。）
- ・ 札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例（子どもが健やかに成長するために欠かせない基本的な権利の保障を進めるために定められたもの）
- ・ 姉妹・友好都市（ポーランド市、ミュンヘン市、瀋陽市、ノボシビルスク市、大田広域市）
- ・ 世界冬の都市市長会（“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界の冬の都市が集まり、冬の技術や経験を学びあうためのネットワーク。1981年に札幌市が提唱して始まり、現在の会員数は9カ国19都市。）
- ・ ユネスコ創造都市ネットワーク【加盟申請予定】（グローバル化の進展により、固有文化の消失が危惧される中で、文化の多様性を保護するとともに、世界各地の文化産業が潜在的に有している様々な可能性を、都市間の戦略的な連携によって、最大限に発揮させるための枠組みで、ユネスコが2004年に創設した。）

札幌市民憲章

札幌をより豊かで明るく住みよいまちにすることを念願して、
昭和38年11月3日に市民の総意として制定され、
今でも札幌人のよりどころとなっていて、札幌人気質をつくることに貢献しています。

前章 わたしたちは、時計台の鐘がなる札幌の市民です。
わたしたちの札幌市は雄大な自然と、たくましい開拓精神をもってきずかれ、
大きく発展しつづけている希望のまちです。
わたしたちは、このまちの市民であることに誇りをもち、たがいのしあわせをねがい、
よい市民となるため、ここに市民憲章をさだめます。

1章 元気ではたらき、豊かなまちにしましょう。
寒さにも暑さにも、まけないからだを心きたえよう。
みんなで仕事をわけあって、はたらくたのしい家庭をつくろう。
仕事に誇りと喜びをもち、いきいきとした職場にしよう。
力をあわせ、産業の発展に役だとう。

2章 空も道路も草木も水も、きれいなまちにしましょう。
大気や水の汚れ、騒音などをなくしよう。
家の周りや道路をきれいにし、花いっぱい運動をひろげよう。
公園などの草花や木をたいせつにしよう。
みんなで使う施設を、よごさないようにしよう。
みにくいはり紙や広告などは、やめるようにしよう。

3章 きまりをよくまもり、住みよいまちにしましょう。
集会の時刻は、きちんとまもろう。
交通規則をまもって、事故をなくしよう。
みんなで力をあわせて、暴力を追放しよう。
たがいに気をつけて、ひとに迷惑をかけないようにしよう。
たがいに親切にし、おとしよりやからだの不自由な人をいたわろう。

4章 未来をつくる子どものしあわせなまちにしましょう。
だいじなしつけは、子供の時からしっかり身につけさせよう。
あかるい家庭で、自覚と責任をもつ強い子を育てよう。
家庭と学校がいっしょになって、ゆきとどいた教育をしよう。
みんなの力で悪い環境から子どもをまもろう。
どの子どももみんな社会の子、力をあわせてみちびこう。

5章 世界とむすぶ高い文化のまちにしましょう。
北国のくらしにあった、衣・食・住のくふうをしよう。
生活の中に、音楽や美術などを生かしていこう。
文化財を大切にし、みんなの文化を高めよう。
世界のひとと手をにぎり、学術、文化の発展につとめよう。